

令和7年度学校経営の改革方針

学校名	津市立藤水小学校	校長名	平松 有吾
児童・生徒数	244名	学級数	13学級
		教職員数	20名

1 めざす学校像【学校教育目標】

こころ、からだ、あたま、みんな元気な藤水小学校

－ ウェルビーイングな学校を目指して －

<参考> SPIRE (スパイア) 理論の導入 (タル・ベン・シャハー博士)

ウェルビーイングな状態を5つの視点 (SPIRE) に分類し、それぞれの視点を高めることで、教師も子どもも、幸せになるという考え方です。

Spiritual Well-Being	(精神的 ウェルビーイング)
Physical Well-Being	(心身的 ウェルビーイング)
Intellectual Well-Being	(知性的 ウェルビーイング)
Relational Well-Being	(人間関係的 ウェルビーイング)
Emotional Well-Being	(感情的 ウェルビーイング)

それぞれの
ウェルビーイング
が作用し
全体的な幸せへ

2 現状と課題

- (1) ①主体的・対話的で深い学びの推進を主題にした授業の改善や②家庭と連携した家庭学習の習慣化、③個に応じた学習の推進などに取り組んでいる。令和6年度の全国学力・学習状況調査においては、国語科が県の平均値を上回り、算数科が県平均よりやや下回る結果であった。
5年生が3学期に実施したみえスタディチェックでは、国語算数とも、県の平均を大きく上回る結果となった。児童向け授業アンケートの結果は、「授業の内容がよく分かる」の項目について9割以上の児童が肯定的に回答している。今後も、学び合う授業、個別最適な授業を目指すことで学力の向上を図っていく必要がある。
- (2) 家庭と連携することを大切にしながら、家庭学習や家庭読書の取り組みを推進したり、ノーメディアチャレンジの充実を図ったりするなど、家庭生活の適切な習慣づくりに努めている。2学期に実施した児童向けアンケートの結果は、平日に費やす家庭学習の時間が前年度に比べて改善したものの、保護者向けアンケートの結果では、「決まった時間に家庭学習を行っている」の項目などは2極化の傾向を示している。これまで以上に家庭と連携した取り組みを進めていく必要がある。
- (3) 「地域とともに」を合言葉に、教育活動への地域の方々の参画の場を積極的に設けている。例えば、住民の方々を招いて、地域の施設や史跡などを見学したり、クラブ指導員として招聘したりする等、地域と連携した教育活動の充実を図っている。その結果、全国学力・学習状況調査の児童質問紙では、児童が地域の行事に参加する割合が増加している。さらに地域と連携した活動などに力を入れていく必要がある。

3 重点目標

スパイア (SPIRE) 理論に基づき、めざす子ども像、めざす教師像の重点目標を設定し、ウェルビーイングな学校を目指します。

○めざす子ども像

- S 自分たちがつくる学校という意識が高い 子ども
- P 運動・睡眠・栄養をしっかりとる 子ども
- I 好奇心をもって学びに向かう 子ども
- R 仲間とのより良い関係が保てる 子ども
- E 豊かな感情をもつ 子ども

○めざす教師像

S 子どもに教えることにやりがい、大きな意義を実感できる 教師

P 心身ともに健康である 教師

I 学ぶこと、教えることに強い情熱がある 教師

R 子どもたち、同僚とのより良い関係が保てる 教師

E ポジティブな感情をもつ 教師

4 具体的な行動計画

(1) めざす子ども像の実現に向けて以下の内容に取り組みます。

S 自分たちがつくる学校という意識が高い

- ・「学び合い」を意識したペアやグループ学習を通じて、自己解決能力や相互解決能力を育むとともに、学校を愛する心を育てます。
- ・児童会や各委員会の活動内容を工夫し、「やってみたい」「知ってほしい」等、能動的な参加を目指します。
- ・架け橋PGを活用し、特に低学年の自主自立性を育みます。
- ・「ひと・もの・こと」などの出会いの場面設定や体験活動の充実を図り、社会参画する力、夢や希望を育てます。

P 運動・睡眠・栄養をしっかりとる

- ・早寝、早起き、朝ご飯の推奨し、規則正しい生活習慣の定着を目指します。
- ・体力テストの結果分析等により、体力向上の取組を促進します。
- ・食の大切さを知り、食に関心を持つことを目指した食教育の充実を図ります。

I 好奇心をもって学びに向かう

- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指し、学び合い等を推奨します。
- ・学び合いやUDの視点などを意識した、わかる授業、楽しい授業を実践します。
- ・ICT端末等を積極的に活用し、自分にあった学びを体験します。
- ・読書に関するイベントや電子書籍を活用し、読書量を増やします。

R 仲間とのより良い関係が保てる

- ・互いの良さを認め、いじめを許さない年間を見通した仲間づくりに取り組みます。
- ・様々な活動を通し温かい人間関係づくりを大切にして自己有用感の醸成を目指します。
- ・児童集会で縦割り班を活用し、異学年交流をすすめます。

E 豊かな感情をもつ

- ・「ふじっこ憲章」を中心に据えた心の教育の充実に取り組みます。
- ・道徳豊かな人間関係の中で互いの良さを認め合う、自己及び他者理解の促進を図ります。

(2) めざす教師像の実現に向けて以下の内容に取り組みます。

S 子どもに教えることにやりがい、大きな意義を実感できる

- ・肯定的な評価とフィードバック方法を理解し、実践します。
- ・教師同士の学び合いを意識した研修をすすめます。
- ・同僚性の向上を目指し、学年部制による児童支援体制を構築します。
- ・常に児童の話題ができる職場環境づくりに努めます。
- ・集会等の児童の主体的な活動に、教師も自分らしく積極的に参加します。

P 心身ともに健康である

- ・ ウェルビーイングに関する情報を発信し、心身の健康やタイムマネジメントに対する意識の向上を図ります。
- ・ 年間計画を意識した授業実践と総勤務時間縮減を意識した働き方を推奨します。
- ・ 記念日年休等の計画年休取得を促し、年休取得率の向上に努めます。
- ・ 養護教諭の指導の下、心の健康について関心を高めます。
- ・ 栄養職員の指導の下、給食指導の統一を図ります。
- ・ リフレッシュを目指した、オフサイトミーティングを開催します。

I 学ぶこと、教えることに強い情熱がある

- ・ 研究授業、校内研修の充実による授業力の向上を目指します。特に、校内研修等の場において動画や写真から児童の学びを考えることで、授業力の向上を目指します。
- ・ 複線型の授業を意識するとともに、タブレット端末を活用した授業研究及び指導方法の改善に取り組みます。
- ・ 研修会への積極的な参加の推奨と校内授業参観による自己研鑽の場の充実を図ります。

R 子どもたち、同僚、保護者、地域とのより良い関係が保てる

- ・ 児童理解のツールとして質問紙（結－E N）を活用し、児童とのより良い関係づくりに取り組みます。
- ・ 生徒指導事案に対し、生徒指導担当を中心に組織的な対応を目指します。
- ・ 職員から管理職への報告、連絡、相談を徹底し、行動力のある組織を構築します。
- ・ 積極的な情報発信や家庭訪問等により、保護者や地域との連携、協力体制の充実を図ります。
- ・ 地域学校協働本部、地域コーディネータと連携して教育活動を推進します。
- ・ 児童、保護者アンケート等を活用し、教育活動の改善充実を図ります。

E ポジティブな感情をもつ

- ・ 笑顔で児童に接し、正しい言葉がけを意識することの習慣化を図ります。
- ・ 研修や校長通信等を活用して児童理解を促進し、多面的な見方や考え方ができる教師を育成します。

【総勤務時間の縮減に向けた取組と目標値】

- ・ 1人あたりの月平均時間外在校等時間数20時間以下
- ・ ノー会議日、定時退校日、月1回以上の設定
- ・ 職員会議日のない水曜日は、定時退校日
- ・ 1時間以内に終了する会議85%
- ・ 長期休業中はすべて定時退校
- ・ 記念日年休の取得推奨
- ・ 1人あたりの休暇取得日数/年10日以上
- ・ 定時に退校できた教職員の割合90%以上